

健康長寿に係る先進的な取組事例

行田市

～健康づくりチャレンジポイント事業『ぎょうだ健幸UP！マイレージ』～

(1) 取組の概要

健康診査や各種検診の積極的な受診や健康づくり活動への関心を高め、市民の主体的な健康づくりを促すとともに、健康の重要性を普及啓発することを目的とする。

各種検（健）診の受診、市や地域で実施する健康づくりに関連する事業への参加、参加者自身が目標とする健康づくり活動に定められたポイントに換算する仕組みとした。

ポイントを貯める項目は4項目。検（健）診受診を必須とした他、県が実施する「健康づくり協力店」事業と連携させた。合計10ポイント以上の参加者全員に対して記念品を贈呈する他、さらに抽選で温泉宿泊券等が当たるチャンスを設定。多くの市民に関心を持っていただけるような楽しみが持てる事業としたものである。

(2) 取組の契機

(ア) 健康づくりへの関心

市民意識調査の結果から、適度な運動による体力づくりや食生活の改善を実行することが、健康づくりのために必要であると考えている市民の割合は、いずれも5割を下回っていた。住みなれた地域で、生涯を健康に過ごしていくためには、市民自らの健康に対する意識を高めていく必要がある。そのため、あらゆる機会を通じて健康への関心を高めるきっかけづくりが求められている。

(イ) 扶助費の増加による市財政の圧迫

高齢化率の推移に比例し、医療費や介護給付金等を含む扶助費の支出は年々増加の一途を辿っており、財政を圧迫する大きな要因となっている。このため、病気にかからず高齢になっても介護を必要としない元気で丈夫な市民を育てることで、扶助費の支出を抑制していくことが求められる。

(ウ) 各種がん検診受診率の低迷

各種がん検診受診率は、いずれの検診項目においても県内最低のレベルにある。自身の手による健康管理の大切さを広く市民に知っていただくための効果的な施策の展開とともに、その効果として各種がん検診の受診率アップに繋げることが求められる。

<各種がん検診受診率（平成22年度：カッコ内は64市町村における順位）>

検診項目	行田市	埼玉県平均
胃がん	1.7% (58位)	6.3%
肺がん	2.2% (61位)	14.4%
大腸がん	5.8% (54位)	15.0%
子宮がん	5.2% (64位)	17.4%
乳がん	6.6% (64位)	16.8%

(エ) 取組の内容

事業名	健康づくりチャレンジポイント事業『ぎょうだ健幸UP！マイレージ』
事業開始	平成25年度

	平成25年度	
予 算	587,650 円 ・ 抽選記念品 204,000 円 ・ 参加記念品 140,000 円 ・ 印刷製本 139,650 円 ・ 記念品等郵送 104,000 円	
参加人数	1,000 人 (応募者目標)	
期 間	平成25年6月～平成26年1月	
実施体制	各種事業等を通じて参加カードの配布	

① 実施に向けた調査研究 (平成24年12月～)

他自治体における実施方法及び効果等の調査

② 「健康づくり協力店」への協力要請 (平成25年4月)

ポイント項目のひとつである「健康づくり協力店」への協力依頼及び事業の説明。

③ チャレンジカードの作成 (平成25年4月)

参加者が健康づくり活動履歴を記入するカードを作成。併せて本事業をPRする為のオリジナルキャラクターも作成。

パンフレット、カードは初版2,000部。増刷を行った。

④ 事業の周知 (平成25年5月～)

市で実施する各種事業等に参加し、チャレンジカードを配布。市報等をとおして事業の周知に努めた。

⑤ 参加者による自主的な健康づくり活動の記録 (平成25年6月～平成26年1月)

参加者が行った健康づくり活動を自主的にカードへ記入。定められたポイントの獲得に向けた健康づくりを行う。

⑥ チャレンジカードの提出 (平成25年1月)

実施期間である平成26年1月31日までの健康づくり活動を記録したカードの提出。参加記念品及び抽選の実施。

現在、応募締め切りにむけ、市報、HPを通じて更に応募を呼びかけ、徐々に応募用紙(カード)が届いている状況である。

⑦ 改善点等の抽出（平成26年2月）

参加者より抜粋し、アンケートを実施。本事業に対する幅広い意見より、事業の課題や改善点を見出し、次年度に繋げていく。

(オ) 取組の効果

① 各種検（健）診受診率の向上

ポイントを貯める項目の内、各種検（健）診の受診を必須項目としたことで、低迷している受診率のアップに繋がることが期待される。

② 市内商店のPR

埼玉県が実施している「健康づくり協力店」事業と連携させたことで、本事業をとおして市内商店の健康づくりに向けたメニュー開発等の取り組みを広く知っていただくとともに、地元商店の活性にも寄与する。

(カ) 成功の要因、創意工夫した点

① 参加者の自主性に任せたこと

健康づくり活動の履歴記入を自己申告制としたことで、より気軽に取り組めるものとした。

② 友好関係にある自治体との連携

抽選記念品には、市と友好関係にある自治体の特産品等を選択。事業をとおして他自治体とも連携した健康づくり活動を知っていただき機会を提供する。

(キ) 課題、今後の取組

① 目に見える形での事業効果

医療費削減の効果等、数値に表れるまでには相当期間を必要とすることから、数値上での効果検証が困難である。

② 幅広い世代の参加者確保

検（健）診や健康教育の参加者の年齢層を見ると、60歳以上の方が多くを占めている現状にある。健康づくりに関し若い世代にいかに関心を持って頂くか、事業の創意工夫が求められる。

本事業は今年度開始であり、実施途中であるため成果を評価することは難しい。しかし、事業の手ごたえとして、若年世代のみならず、市民に対し十分に浸透できたとは言いがたく、応募は徐々に届いているがまだまだ少ない状況である。しかし、届いた応募用紙（カード）からは参加者が応募条件に満遍なく取り組み、応募していただいていることが分かる。このことは健康づくり活動へのきっかけづくりにはなっていると思われる。

来年度以降は、本事業がより多くの市民に浸透するよう、PRの強化に努めていき、ま

た健康づくりに関心を持ち一人でも多くの方に参加していただけるような魅力ある事業として、今後内容等にも検討を重ね、取り組んでいきたい。